

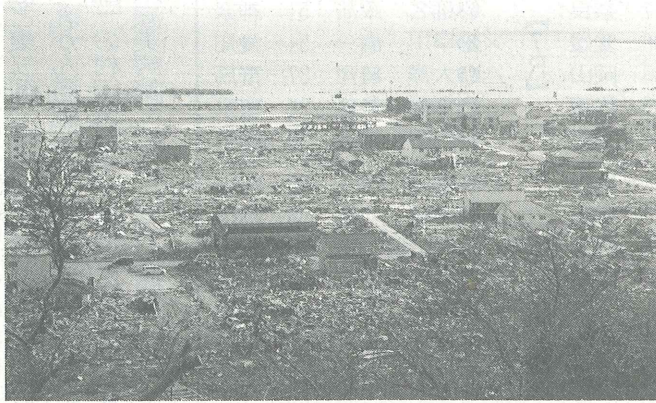
# 東日本大震災のつめあと

⑧

三船康道

平地型(都市型)  
復興モデルプラン

ここからは3回に分けて復興モデルプランを提案する。



平地型(都市型)の被害—石巻市

① 中心部を内陸に移動する。  
② 土地利用の再構成  
③ 土手による高台の道路、鉄道の堤防として有効利用

④ 避難施設(避難ビル、エスケープ・ヒル)の有効配置  
⑤ 瓦礫(がれき)の有効利用

今回は、平地型(農地型)復興モデルプラン作成の基本方針と、モデル図を紹介する。

その前に、前回示した復興モデルプラン作成の基本方針の概略を述べ、平地型(農地型)の復興モデルプランについて説明する。

津波の被害を内部に及ぼさないように復層の堤防を計画する▽海側から内陸に向けてそれぞれ、漁業・港湾ゾーン、業務・商業施設ゾーン、住宅地ゾーンとする▽漁業・港湾ゾーンと業務・施設ゾーンの間、及び業務・施設ゾーンと住宅地ゾーンの間、高台の道路、鉄

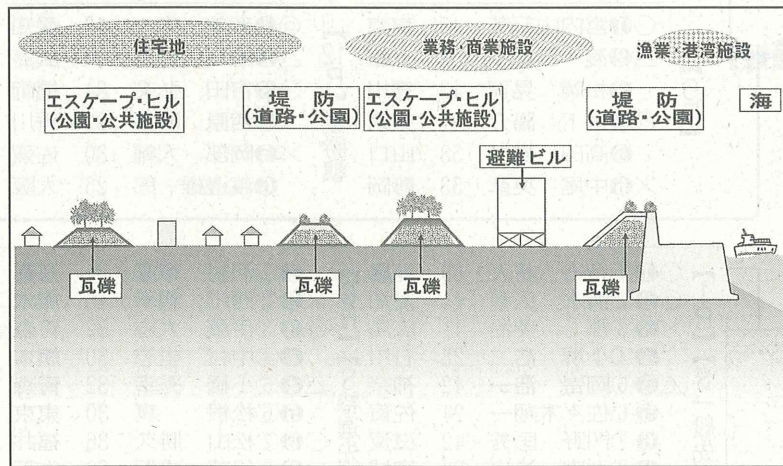
道あるいは公園を利用する。

## 瓦礫使いエスケープ・ヒル

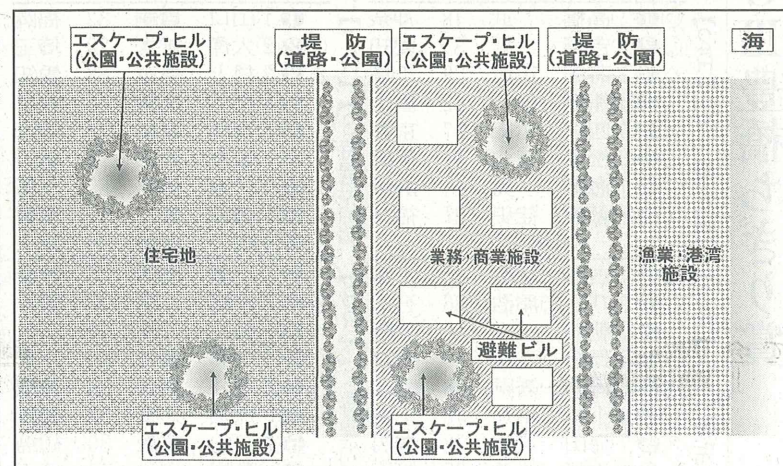
業務・商業施設ゾーン及び住宅地ゾーンに

は、瓦礫を利用した工

用できる鉄筋コンクリート造の避難ビルとする。公共施設を計画する。



平地型(都市型)の復興モデルプラン(断面)



平地型(都市型)の復興モデルプラン(平面)



# 東日本大震災のつめあと ⑨

三船康道

## 平地型(農地型)復興モデルプラン

今回は、平地型(農地型)復興モデル図を紹介する。その前に、前回示した(地型)復興モデルプラン作成の基本方針と、た復興モデルプラン作成の基本方針



平地型(農地型)の被害—仙台市若林区

〈平地型(農地型)復興モデルプラン基本方針〉

- ① 中心部を内陸に移動する
  - ② 土地利用の再構成
  - ③ 土手による高台の道路、鉄道の堤防としての有効利用
- 成の基本方針の概略を述べ、平地型(農地型)の復興モデルプランについて説明する。
- 〈復興モデルプラン作成の基本方針〉
- 問題は、塩害を受けた農地を農地として使い続けるかどうかである。農地として使うには数年必要とされることもあり、その可能性を検討することが課題である。
- 一方で、海岸沿いと

## 「塩害農地」どう使うか

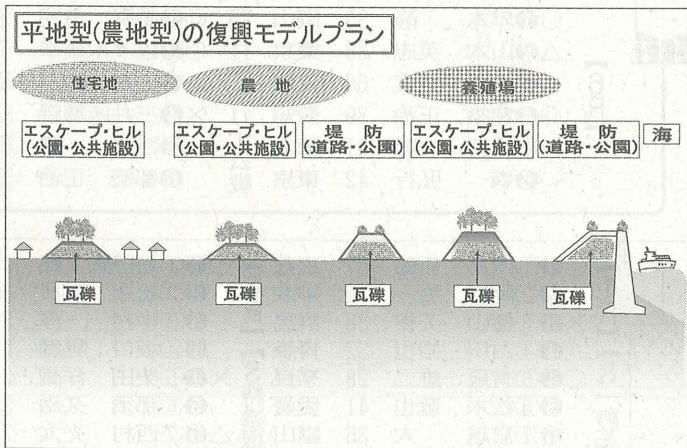
④ 避難施設(避難ビル、エスケープ・ヒル)の有効配置

⑤ 瓦礫(がれき)の有効利用

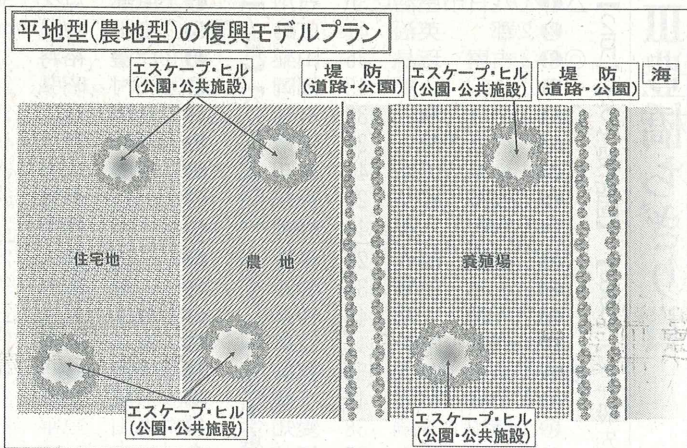
いふことを利用して、養殖場等に転換することも考えられる。また、広い平地であり、避難のために、エスケープ

・ヒルを有効に配置する。以上を踏まえて、次の方針とする。

津波の被害を内部に及ぼさないように復層



平地型(農地型)の復興モデルプラン(断面)



平地型(農地型)の復興モデルプラン(平面)

の堤防を計画する▽海側の被災の程度が大きい農地は産業転換を問、そして場合によって農地ゾーンと住宅地ゾーンの間、高台の道路、鉄道あるの用に当てる。

海沿いと養殖場ゾーン、農地ゾーン及び住宅地ゾーンには、瓦礫を利用したエスケープ・ヒル(公園・公共施設)を計画し、避難

住宅地ゾーンとする。

を計画する▽養殖場ゾ





リアス式海岸型復興モデルプラン

リアス式海岸型の被害＝大船渡市

# 東日本大震災のつらさと

⑩

## 三松康道

③土手による高台の道津波から守ることが課題  
 ④避難施設選定難し  
 エスケープ・ビルでの大きな市のダウン  
 有効利用  
 路、鉄道の堤防として  
 になる。モデルプラン  
 作成の方針は次の通り  
 り。モデルプランの図  
 エスケープ・ビルでの大きな市のダウン  
 を示す。

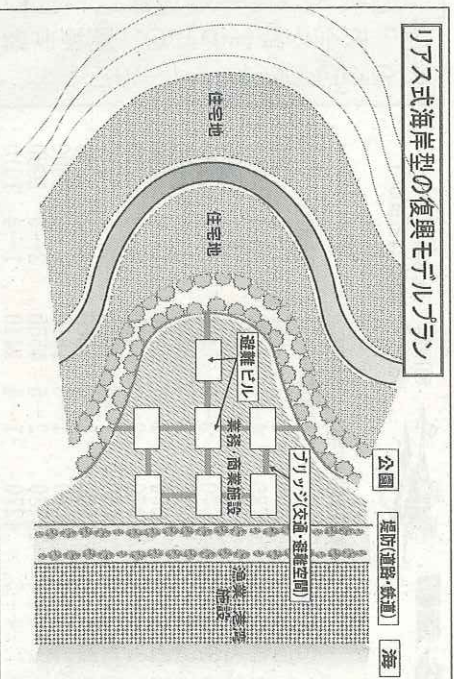
今回は、リアス式海岸型復興モデルプランの有効配置  
 ⑤瓦礫(がれき)の有効利用  
 の景観を保全し、住民  
 地から海の眺望観も  
 保全する▽住宅地に被  
 リアス式海岸型復興  
 モデルプラン基本方針  
 害が及ばないように、  
 リアス式海岸型の場  
 高台移転や、瓦礫を使

モデル図を紹介する。  
 その前に以前示した共通の復興モデルプラン作成の基本方針の  
 概要を述べ、リアス式海岸型復興モデルプランの  
 概要を述べ、リアス式海岸型復興モデルプランの  
 概要を述べ、リアス式海岸型復興モデルプランの

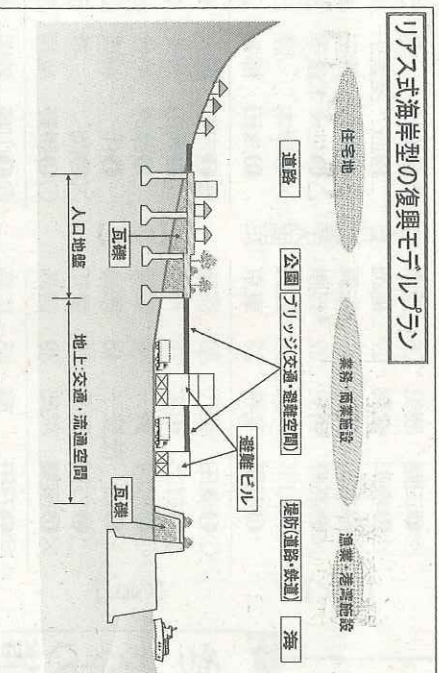
## 津波から住宅地を守れ

リアス式海岸型復興モデルプランについて説明する。  
 村のエリアと三陸南部の大船渡のような平場  
 の大船渡のような平場の土場持を持つときは、海側から内陸に向  
 復興モデルプラン作成の基本方針

①中心部を内陸に移動する。  
 ②土地利用の再構成  
 ③土手による高台の道津波から守ることが課題  
 ④避難施設選定難し  
 エスケープ・ビルでの大きな市のダウン  
 有効利用  
 路、鉄道の堤防として  
 になる。モデルプラン  
 作成の方針は次の通り  
 り。モデルプランの図  
 エスケープ・ビルでの大きな市のダウン  
 を示す。



リアス式海岸型の復興モデルプラン(平面)



リアス式海岸型の復興モデルプラン(断面)

リアス式は交通空間  
 海沿いの場合は堤防  
 及び避難空間とし、ネ  
 を兼ねた高台を利用  
 ットウクを形成し、内  
 陸の場合は人工  
 地盤を利用する。  
 業務・商業施設▽  
 業務・商業施設▽  
 (シエスマニミニ  
 (おわり)  
 通空間とする▽鉄道は  
 ゴ代表取締役